

地名を歩く

六十 大工町



北から見た「大工町」



大工町の南にある正善寺

「大工町」は現在の高梁市大工町のこと、北は伊賀谷川、南には荒神町が、東には柿木町と向町が、西側には鍛冶町があります。

江戸時代には「大工丁」と書かれ備中松山藩城下町の一町で、武家町の一つでした。城下町の下級武士の住む家中屋敷町として取り立てたのは池田備中守長幸が城主時代の元禄三年（一六九七）の頃のことでした。今では城下町時代の家並こそ残っていないが町筋が残り、当時は町の中央部に位置し、町人の町鍛冶町と武家町の柿木丁に挟まれた短い堅町型の町並を伝えているのです。そして南北の道に交差する横町の道は鍵形に折れ曲がって城下町時代を留めています。

『水谷史「御家内之記」』(市図書館)によると、元禄七年（一六九四）戊正月改、として大工町 長さ四十八間(約八六メートル)、家數十軒、給人(地方知行をあたえられる者)家數十軒と書かれています。「増補版高梁市史」によると下家中(紺屋川)伊賀谷川から牢屋小路(花みづき通り)までの家中屋敷屋敷の大工丁は、水谷氏の元禄六年（一六九三）には家中屋敷一〇軒、世帯数一〇軒、石川時代の延享元年（一七四四）には家中屋敷一軒、世帯数八軒、その後の慶応（一八六五）頃には世帯数五軒となっていて、幕末になるにしたがって世帯数は減少しています。「昔夢一班」や「松山城下屋敷絵図」(市図書館)によると嘉永（一八四八）・安政（一八五四）頃の大工丁は、通りを

挟んで東側に馬廻格(親衛軍的性格で、家臣団の中心となる)と中小姓(大名や旗本の下級家臣)の屋敷二軒、西側に中小姓・表医師と大小姓格二軒(内一軒表医師)計三軒の家中屋敷が記録され、それぞれ氏名が書かれています。また、町筋の南端、東西の路地を隔てて浄土真宗高梁山 正善寺があります。本尊は阿弥陀如来で、寺伝によると文禄二年（一五九三）内山下に釈祐安法師が創建し、たかはしの地名を偲び山号をつけたといわれ、四代住職釈大圓法師の延享四年（一七四七）に現在地に移ったが、天保三年（一八三二）と天保一〇年（一八三九）の大火のとき町屋とともに罹災(被災)しています。この寺には城下町時代の御用商人で藩札を発行していた大阪屋の菩提寺で、墓も残っています。現在の正善寺墓地の北東の角(路地を柿木町へ出たところ)には番所がありました。

江戸時代、城下町の家中屋敷町だった「大工町」も今では当時の堅町筋と横町筋(小路)そして寺が当時の面影を残すのみとなっています。

「大工町」の町名は近世城下町の地名には違いありませんが、城下町のできた頃に、木工職人が建築職人が居住したところから町名が生まれたと考えられますが、武家町としての記録しかありません。

(文・松前俊洋さん)



学園だより

「伊賀祭 2009」開催！



伊賀祭実行委員会
委員長
西本 修平さん

季節の流れは早いもので、今年も伊賀祭の時期がやってきました。今年は、11月7日(土)・8日(日)の2日間の日程で開催します。

42回目となる今回のテーマは「祭交2009」。学生同士、学生と市民の皆さんなど多くの人に、伊賀祭を通じて交流を深めてほしいという願いを込めています。

さて、今年もさまざまな企画を計画しており、学生の日ごろの活動や学科の紹介などを見ることが出来る「学科ブース企画」、市中パレードと「松山踊り」のコラボレーションなど、例年とは一味違った企画も予定しています。また、スピリチュアルカウンセラー・江原啓之さんの講演も開催予定です。

皆さんに伊賀祭を楽しんでいただけるよう、私たち実行委員会一同、一生懸命準備を進めていますので、ぜひ伊賀祭にお越しください。皆さんのご来場を心よりお待ちしております。

プロコンサートは、帝京高校野球部出身の3人組「ONE☆DRAFT」に決定。心に響く魂のこもったライブをお楽しみください。

▶開催日時：11月8日(日)

午後6時開演（午後5時開場）

▶チケット：前売券 1,500円、当日券 1,800円



※11ページに関連記事。

■問い合わせ 伊賀祭実行委員会 (TEL 221853)

編集後記

先日、行われた「トキめき新潟国体」の女子サッカーで、岡山県チームが初優勝を飾りました。チームの中心は岡山湯郷ベルの皆さんで、今月号の「カメラあらかると」で紹介している神原スポーツ公園多目的広場完成記念イベントにも参加してくださいました。

このグラウンドも少しは貢献できたかな」と勝手に感激しています。

湯郷ベルの皆さんは、完成記念イベント前日に埼玉での公式戦があり、疲れも残っていたはず

ですが、サッカー教室・親善試合とも楽しそうに、それでいて真剣に参加してください、本当にうれしく感じました。

完成記念イベントでは、あこがれの元日本代表本田美登里さんと間近でお会いでき、わずかながら緊張で会話はしどろもどろ…。広報マンとしてまだまだ未熟だと感じさせられた1日でもありました。

(MM)

まちの伝言板

平川鋤崎八幡神社の大祭 (渡り拍子)



平川渡り拍子保存会
会長 平木 宗夫さん(69)

秋の収穫も終わりを迎え、周囲の山も衣替えを始めた11月3日、備中町平川地域では、朝から渡り拍子の鉦の音が響き渡ります。

「今年も大きな災害に見舞われることなく収穫を迎えることができました。来年も健康で迎えられるように祈りたい」と平木さん。

渡り拍子は約600年続く市重要無形民俗文化財。衆打ちとも呼ばれ、鉦や太鼓・拍子木の音に合わせ、花笠や女衣、袴など色鮮やかな衣装に身を包んだ4人

の跳び子が華やかな舞を繰り広げます。

平川4地区から2組ずつが早朝に出発し、あぜ道や民家を衆打ちしながら巡り、大願主平川邸門前で勢ぞろいし衆打ちします。午前11時ごろに平川郷地区の古銭山大社で奉納舞いを行い、その後、一行は鋤崎八幡神社へ宮入りし、神社境内で華々しく賑やかに衆打ちが行われます。

「駐車場も用意してあるので、ぜひ一度見に来てください。」

詳細は次のとおり。

▽日時：11月3日(火・祝)

▽場所：平川鋤崎八幡神社ほか

平川地域一帯

▽駐車場：平川憩いの家グラウンド

■問い合わせ 平川渡り拍子保存会 (TEL 2097)